

日銀事務所長の  
あさひかわ経済  
ディスカバリー 31

### 旭川経済の将来展望

先日、旭川にとってシ  
ョッキングな報道があ  
りました。旭川市の人口  
が二月一日現在で三十  
三万九千八百五十八人  
となり、遂に三十四万人  
を切ったというニュー  
スです。そのしばらく  
後、二〇一七年中の旭川  
市の人口が八百三十人  
の転出超過で、釧路市に  
次いで道内二番目に多  
かったとの報道もあり  
ました。

また、少し前に話題に  
なったのですが、二〇一  
五年度の旭川の法人税  
収(旭川中・東税務署管  
内。周辺八町を含む)は、  
苫小牧に抜かれて道内  
五位になってしまいま  
した。旭川は人口では道  
内二位なのですが、税収  
からみた経済活動規模  
は五番目の都市なので  
す。

気が滅入る話ついで  
にもう一つ。二〇一七年  
十二月末現在の旭川市  
内の金融機関の預金残  
高は約一兆八千億円で  
すが、貸出残高は約八千  
七百億円で、預貸率は四  
八%です。この預貸率は



人口減少が続く旭川=子安米信さん撮影

川はこのままどんどん  
小さくなってしまっ  
てしまうん  
ですよね」と自虐的な声  
も耳にします。そんな  
時、私としては、これま  
ではなるべく旭川のよ  
いところを  
強調するよ  
うにしてき  
ました。豊か  
な自然、広々  
とした街並  
み、おいしい  
食べ物等々。  
景気は「気  
からと言わ  
れるように、  
何と行って  
も経済活性  
化のために  
は、経済主体  
である企業  
や市民の二

「気」が大事ですから。  
こうした旭川の美点  
は、これまで数多くの転  
勤者が語ってきたこと  
だと思えます。地元の  
方々も「そつですよね。  
旭川もよいところをも  
っとPRして活性化し  
ていかないと」と意気投  
合し、盛り上がりませ  
でも、いつもそれきり  
なっていてしまっているよ  
うに思われます。

私もすでに三年近く  
住んでいますので、この  
頃は転勤者の目では  
なく、一人の市民として  
旭川経済の将来を憂え  
るようになりました。旭  
川では企業の投資が増  
えています。地元企  
業からは、「今の景気は  
よくて、人口は減って

いるし、将来の収益に自  
信が持てない」と慎重な  
声が多く聞かれます。そ  
れぞれの経営判断です  
ので、それは尊重すべき  
とは思いますが、何とな  
くまち全体が守りに入  
ってしまっているよう  
な気がします。堅実なの  
かもいれませんが、現状  
でも相応にやってみて  
いるので特に困って  
いないということかも  
しれません。百三十年  
の開拓の歴史を持つま  
ちにしては保守的に感  
じてしまいます。

体では却ってマイナス  
の結果になってしまっ  
たというものです。例え  
ば、個人が節約のために  
消費支出を抑えて貯蓄  
に励んだとしても、国全  
体では経済活動が停滞  
し、所得が減少してしま  
うのです。旭川経済で  
も、これと同じことが起  
こっているような気が  
してなりません。

経済学では、この「合  
成の誤謬」を克服するた  
めに、国による財政政策  
や金融政策が発動され  
るようになり、マクロ経  
済学が生まれました。旭

と想います。このまま  
「茹でガエル」になって  
しまわないように……  
(毎月第四週に掲載します)

経済学では「合成の誤  
謬(ごびゅう)」という  
概念があります。個人と  
か企業といった個々の  
経済主体が合理的に行  
動したとしても、一国全

【河村賢士(かわむらけんじ)】一九六二年(昭和三十  
七年)東京都生まれ。一橋大学経済学部卒。支店は函  
館、福岡に勤務。二〇一五年(平成二十  
七年)六月、国際局国際業務課長から  
旭川事務所長に着任。趣味は登山、ス  
キー。

